

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第3回）

日時：平成28年9月27日（火）

10：00～12：00

場所：岩手県立大学アイーナ

キャンパス7階学習室1

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 協議事項等

（1）第2回研究会で示された課題について

（2）検討項目

① 指標の種類

ア 「岩手らしさ」を踏まえた指標設定の考え方について

イ 主観的指標の具体例について

ウ 客観的指標の項目例について

② 県民参画等による指標の活用方法

（3）その他

4 閉 会

「岩手の幸福に関する指標」研究会 委員及びアドバイザー 名簿

(研究会委員)

氏名	役職名
竹村 祥子	岩手大学人文社会科学部 教授
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 監査役
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事

(アドバイザー)

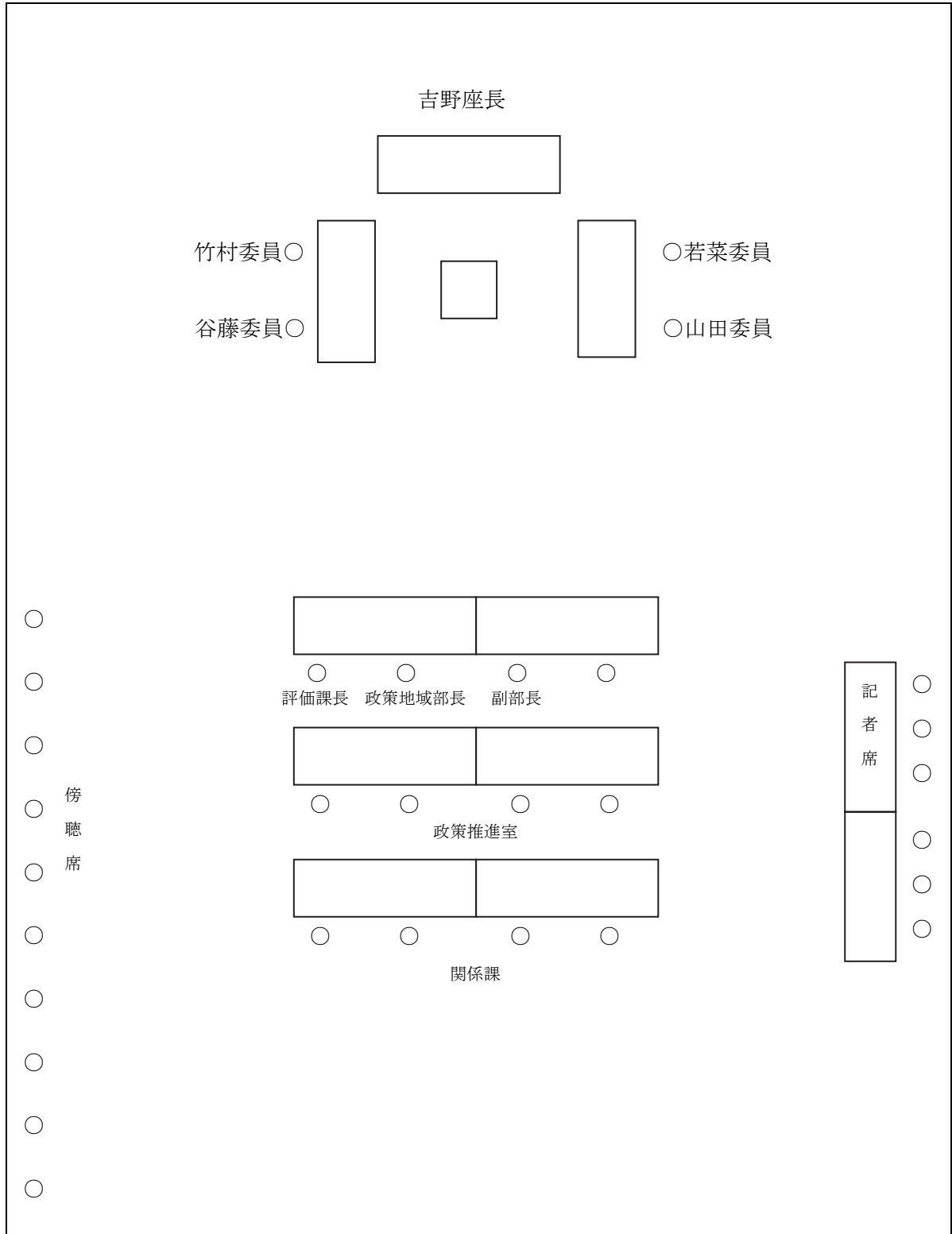
氏名	役職名
広井 良典	京都大学こころの未来研究センター 教授

(敬称略 50 音順)

「岩手の幸福に関する指標」研究会（第3回）座席表

日時：平成28年9月27日（火）10：00～12：00

場所：岩手県立大学アイーナキャンパス7階学習室1



資料一覧

資料1	第2回研究会で示された主な意見等について・・・・・・・・・・	3
資料2	「岩手の幸福に関する指標」研究会（第3回）検討項目資料・・・・・・・・	9
資料3	客観的項目とすべき項目（素案）・・・・・・・・・・	33
資料4	幸福に関する平成29年県民意識調査の設問項目（案）・・・・・・・・	37
資料5	「岩手の幸福に関する指標」研究会 中間報告書の概要（素案）・・・・	45

第 2 回研究会で示された主な御意見について

1 幸福の概念

- 使用する用語について、幸福感と幸福度は違う概念と考えられることから、使い方を統一すること。主観的指標の部分が幸福感で、客観的指標を含む全体が幸福度なのではないか。

2 幸福に関連する領域

- 県民意識調査の質問内容が主観的指標（領域別実感）となることから、質問内容は重要であり、精査した方がよいのではないかと。特に、教育の部分については、子どもの教育ではなく、自分が受けた教育や、地域の教育レベルという聞き方のほうが適切ではないかと。
- 設問内容をそのまま領域名に活用した方がわかりやすいのではないかと。
- 生活満足度と領域別実感との相関を見ることにより、より主観的幸福感と生活満足度の違いがわかるのではないかと。

3 指標の表現方法

- 政策評価として指標を活用する際には、ダッシュボード方式でよいが、県民運動に用いる際には、県民自らが重み付けを判断することができ、統合方式の短所が解決できることから、統合方式も活用してはどうか。

4 指標の種類

- 主観的指標の考え方は **happiness** ではなく、**well-being** に着目したものであるべき。すなわち、よい状況が保っているかを図るべきであり、客観指標とは異なり右肩上がりを目指すのではなく、落とさない、もしくは少しずつあがる、という視点で見ていくのがよい。
- 客観指標には県の政策として努力して上げていけるものを盛り込むべきであり、その際には他と比較ができることが重要である。
- 集合的幸福感については難しい概念ではあるが、自分だけ幸福になるというのはあまり好きではない等の感性も岩手の中にはあるのではないかと。
- 指標については、県民や地域でカスタマイズできるようなものとするのが望ましい。

5 その他

- ソーシャルキャピタル等、一般に馴染みの無い単語については、一般向けに説明する際に用語の解説を行うこと。また、用語の統一性について留意すること。

御意見への対応

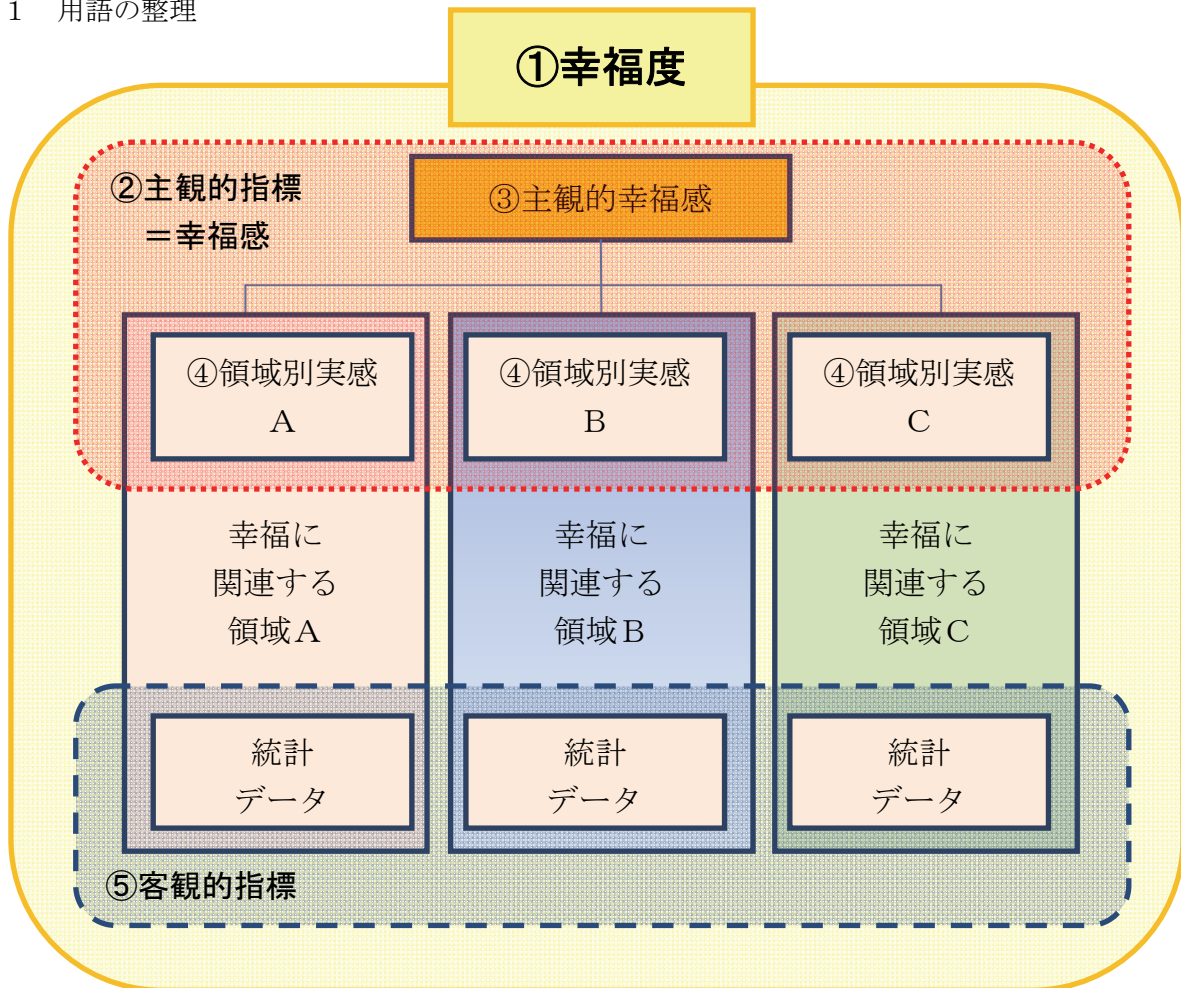
1 幸福の概念関係

- 使用する用語について、幸福感と幸福度は違う概念と考えられることから、使い方を統一すること。
主観的指標の部分が幸福感で、客観的指標を含む全体が幸福度なのではないか。

幸福感と幸福度の概念について、御指摘を踏まえ、本研究会においては次のとおり整理する。

- ①幸福度…幸福感を表す主観的指標と、幸福に関連する統計データによる客観的指標で示されるもの。
- ②主観的指標…主観的幸福感と領域別実感で構成されるもの。
- ③主観的幸福感…「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、5段階で評価したもの。
- ④領域別実感…幸福に関連するとされる領域毎に、その実感を5段階で評価したもの。
- ⑤客観的指標…幸福に関連すると考えられる統計データ。

図1 用語の整理



2 幸福に関連する領域関連

- 県民意識調査の設問が主観的指標（領域別実感）となることから、その内容は重要であり、精査した方がよいのではないかと。特に、教育の部分については、子どもの教育ではなく、自分が受けた教育や、地域の教育レベルという聞き方のほうが適切ではないかと。
- 設問内容をそのまま領域名に活用した方がわかりやすいのではないかと。

- ・ 幸福については、継続性・効率性等の観点から、県民意識調査を活用して調査することとし、世代共通項目による設問とする。
- ・ 御指摘をふまえ、教育領域について本人の学習環境に関する新たな設問を設けるとともに、自然環境領域の設問については、自然のゆたかさを問うものを追加する。
 その他の設問については、表2のとおり先行事例における主観的指標の表現を踏まえて設定したものであることから妥当と考えており、調査の継続性の観点からも変更しない。
- ・ ご指摘を踏まえ、わかりやすさの観点から、主観的指標と設問内容との関係をより明確にしたものとして領域別実感指標名を置く。一方で、幸福は主観的指標のみで表すのではなく、客観的指標で補足することとしているため、設問内容と領域名は同一にしないこととする。

表1 領域別実感の設問

領域	設問候補		領域別実感指標名
	変更前	変更後	
仕事	仕事にやりがいを感じますか	変更しない	仕事のやりがい
収入	必要な収入や所得が得られていると感じますか	変更しない	必要な収入や所得
健康	こころやからだ健康だと感じますか	変更しない	心身の健康
家族	家族と良い関係がとれていると感じますか	変更しない	家族関係
子育て	子育てがしやすいと感じますか	変更しない	子育て
安全	お住まいの地域は安全だと感じますか	変更しない	地域の安全
コミュニティ	地域社会とのつながりを感じますか	変更しない	地域社会とのつながり
教育	子どものためになる教育が行われていると感じますか	子どものためになる教育が行われていると感じますか	子どもの教育
		あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか(追加)	自身の学習
歴史・文化	地域の歴史や文化に誇りを感じますか	変更しない	歴史・文化への誇り
自然環境	地域の自然環境が守られていると感じますか	地域の自然環境が守られていると感じますか	自然環境の保護
		自然に恵まれていると感じますか(追加)	自然のゆたかさ
居住環境	住まいに快適さを感じますか	変更しない	住まいの快適さ
余暇	余暇が充実していると感じますか	変更しない	余暇の充実

表2 主観的指標候補の他県事例との比較

指標名	設問	OECD	内閣府	シグマ	東北活 化研究セ ンター	富山県	三重県	京都府	熊本県	荒川区
主観的幸福感	あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか		○	○	○	○			○	○
領域別 実感	仕事のやりがい	仕事にやりがいを感じますか		○	○	○		○		○
	必要な収入や所得	必要な収入や所得が得られていると感じますか	△	△	△		○		○	○
	地域の安全	お住まいの地域は安全だと感じますか							△	○
	住まいの快適さ	住まいに快適さを感じますか	△	△		○				
	余暇の充実	余暇が充実していると感じますか	△	△						○
	心身の健康	こころやからだ健康だと感じますか	○	○	○	○			○	○
	子育て	子育てがしやすいと感じますか		○	△	○		△		○
	子どもの教育	子どものためになる教育が行われていると感じますか		△	△		○	△		△
	自身の学習【今回追加】	あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか			○				○	○
	家族関係	家族と良い関係がとれていると感じますか		○		○				
	地域社会とのつながり	地域社会とのつながりを感じますか		△	△				○	△
	歴史・文化への誇り	地域の歴史や文化に誇りを感じますか				○		△	○	○
	自然環境の保護	地域の自然環境が守られていると感じますか		△	○		△			
	自然のゆたかさ【今回追加】	自然に恵まれていると感じますか		△	△				△	

※ ○は設問候補と趣旨・表現がほぼ同じもの、△は趣旨・表現が近いものを示す。

○ 生活満足度と領域別実感との相関を見ることにより、より主観的幸福感と生活満足度の違いがわかるのではないかと。

生活満足度と領域別実感の相関は表3のとおりであり、主観的幸福感と領域別実感の相関と比較すると、次の特徴がある。

- ・生活満足度は、収入や居住環境といった物質的・経済的領域との相関が高い。
- ・一方で、家族や歴史・文化といった非金銭的領域との相関が低い。

岩手の幸福に関する指標については、物質的・経済的ゆたかさにとどまらない視点での指標とするため、主観的幸福感を調査していくことが重要と考えられる。

表3 領域別実感指標と、主観的幸福感及び生活満足度の相関

領域別実感指標名	主観的幸福感	生活満足度
主観的幸福感	-	0.55
生活満足度	0.55	-
仕事のやりがい	0.42	0.30
必要な収入や所得	0.41	0.46
心身の健康	0.50	0.40
家族関係	0.52	0.31
子育て	0.40	0.34
地域の安全	0.34	0.30
地域社会とのつながり	0.33	0.28
子どもの教育	0.28	0.23
歴史・文化への誇り	0.24	0.18
自然環境の保護	0.24	0.23
住まいの快適さ	0.50	0.44
余暇の充実	0.53	0.44

3 指標の表現方法関係

- 政策評価として指標を活用する際には、ダッシュボード方式でよいが、県民運動に用いる際には、県民自らが重み付けを判断することができ、統合方式の短所が解決できることから、統合方式も活用してはどうか。

県民運動に用いる際には、統合方式の活用を検討する（資料2参照）。

4 指標の種類関係

- 主観的指標の考え方は happiness ではなく、well-being に着目したものであるべき。
すなわち、よい状況が保てているかを図るべきであり、客観指標とは異なり右肩上がりを狙うのではなく、落とさない、もしくは少しずつあがる、という視点で見ていくのがよい。

御指摘のとおり、OECD では、短期的な感情面のみが強調される「happiness=幸せ」という単語の使用を推奨していないことから、本研究会では用語として「幸福」を「well-being」という意味で使用していく。視点についても、御指摘を踏まえ長期的な視点で見ていくこととする。

「幸せ (happiness)」という言葉は、主観的幸福 (subjective well-being) の便利な略語として、大衆向けのメディアでも一部の学術論文でも用いられることが多い。(略)

肯定的感情経験は、主観的幸福の重要な一部分ではあるが、包括的な概念の一部を代表するにすぎず、「幸せ」という言葉は否定的感情経験だけでなく、主観的幸福の生活評価的、エウダイモニア的側面を軽視することとなる、

したがって我々は、特に国立統計機関が公表しているデータを、「幸せ」という観点からのみ論じないことを推奨している。

出典：OECD (2015)『主観的幸福を測る OECD ガイドライン』

- 客観指標には県の政策として努力して上げていけるものを盛り込むべきであり、その際には他と比較ができることが重要である。

県が具体の指標を設定するに当たって、御指摘を踏まえた検討を行う。

- 集合的幸福感については難しい概念ではあるが、自分だけ幸福になるというのはあまり好きではない等の感性も岩手の中にはあるのではないかと。

御指摘の点については、人並み感（協調的幸福感）という視点で内閣府の幸福度指標試案にも盛り込まれており、指標の設定のアプローチの観点から調査を検討することとする（資料2参照）。

- 指標については、県民や地域でカスタマイズできるようなものとするのが望ましい。

報告書において、指標の具体例・項目を示すこととし、地域レベルで検討する際の参考になるようにする。

5 その他

- ソーシャルキャピタル等、一般に馴染みの無い単語については、一般向けに説明する際に用語の解説を行うこと。

また、用語の統一性について留意すること。

報告書においては、用語の統一性に留意するとともに、一般的ではない用語については解説を行う。

資料2

「岩手の幸福に関する指標」研究会(第3回) 検討項目資料

主な論点

1 幸福の概念

議論の前提として、先行事例等を基に一定の共通認識を整理する。

2 幸福に関連する領域

先行事例を基に幸福に関連する領域を検討する。

3 指標の表現方法

個別指標の集まりで示すか、一つの数値に統合するか検討する。

4 指標の種類

指標の構成において、主観的指標、客観的指標の取扱いをどうするか。また、指標設定にあたっての考慮事項(属性、岩手が目指すゆたかさ)を検討する。

【継続】

○「岩手らしさ」を踏まえた指標設定の考え方について

○具体的な主観的指標、客観的指標のイメージ(例)について

5 指標の活用方法

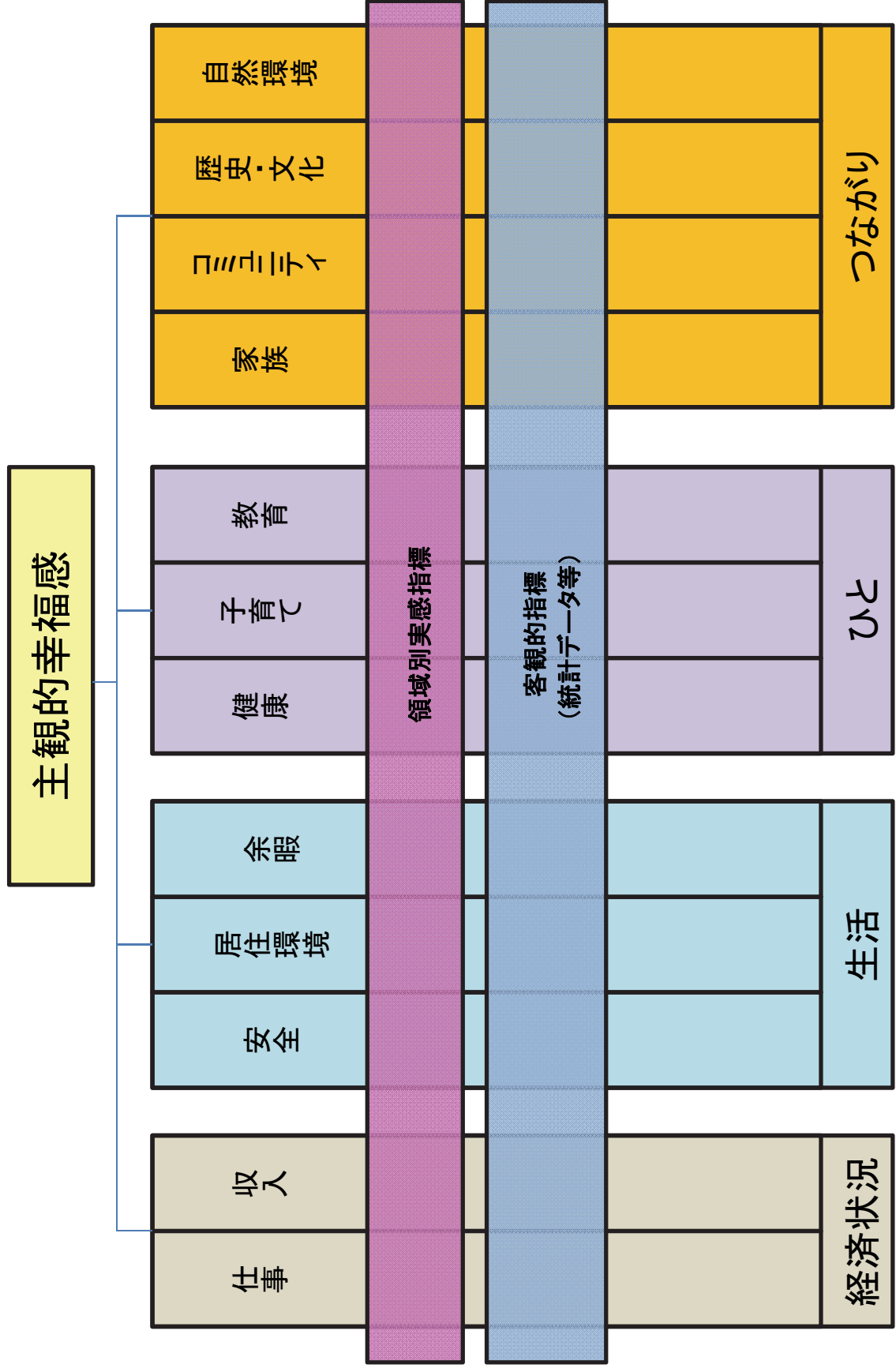
政策評価における指標の活用のあり方や、県民参画による指標の活用方策などについて検討する。

【継続】

○県民参画等による指標の活用方策について

第3回研究会で主に
「議論いただきたい内容

幸福に関する体系イメージ(第2回時点)

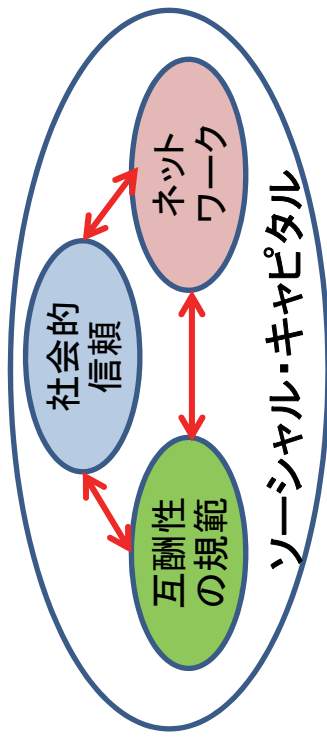


検討事項4 指標の種類(ア 岩手らしさを踏まえた指標設定の考え方)

1 指標の設定方法によるアプローチ ①ソーシャルキャピタル

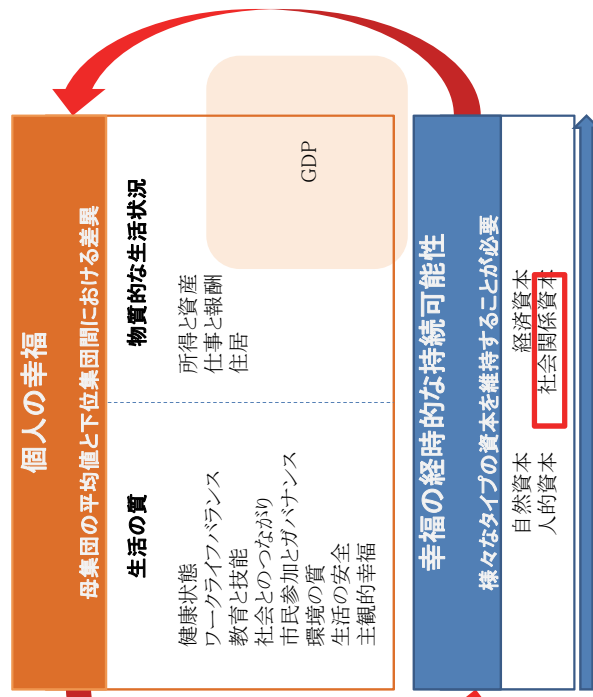
- 人のつながりや、個人と集団の幸福といった考え方を踏まえ、いわゆるソーシャルキャピタル(社会関係資本)に関する項目について、指標への導入を検討してはどうか。
- 平成29年県民意識調査において、ソーシャルキャピタルを調査してはどうか。

・ソーシャルキャピタル(社会関係資本)とは人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「**信頼**」「**規範**」「**ネットワーク**」といった**社会組織の特徴**(ロバート・パットナムの定義)のこと。
【内閣府 コミュニティ機能再生とソーシャルキャピタルに関する研究報告書】



・現在の人々の幸福が未来の人々の幸福を損なわないためには、幸福の持続可能性を測定する必要がある。(略)
その第一歩は、未来の世代へと引き継がれる、幸福を生む出す資源を監視することである。
資源は大きく4つのタイプ「**経済資本**、**自然資本**、**人的資本**、**社会関係資本**」に分けることができる。
【OECD OECD幸福度白書2】

・ソーシャルキャピタルが豊かな地域では、相互依存的幸福が成立する傾向にある。
【内田由紀子 岩手県 第76回岩手県総合計画審議会資料】



2 先行事例(ソーシャルキャピタル)

先行事例では、ソーシャルキャピタルを以下のような項目で測定している。

ソーシャルキャピタルの測定指標

ソーシャルキャピタルの構成要素	指標名
I つきあい・交流 (ネットワーク)	ア 近隣でのつきあい
	イ 社会的な交流
II 信頼 (社会的信頼)	ア 一般的な信頼
	イ 相互信頼・相互扶助
III 社会参加 (互酬性の規範)	ア 地縁的活動への参加
	イ ボランティア・NPO・市民活動への参加
	(1) 隣近所とのつきあいの程度
	(2) 隣近所とつきあっている人の数
	(3) 友人・知人とのつきあいの頻度
	(4) 親戚とのつきあいの頻度
	(5) スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況
	(6) 一般的な人への信頼
	(7) 近所の人々への信頼度
	(8) 友人・知人への信頼度
	(9) 親戚への信頼度
	(10) 地縁的な活動への参加状況
	(11) ボランティア活動行動者率
	(12) 人口一人当たり共同募金額

出所：内閣府(2003) ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて

1 指標の設定方法によるアプローチ ② 協調的幸福感

○ 他者との関係性のなかでの幸福に着目し、平成29年県民意識調査において、協調的幸福感(人並み感)を調査してはどうか。

・一般的に自尊心を促す形で幸福感を高める欧米に比して、アジアでは他者への思いやりや感謝の念、自然との調和など「関係性」を通じて主観的幸福感が高まるとされる。【内閣府 幸福度に関する研究会報告】

・日本の場合、アメリカのように何かを獲得する意味ではなく、繰り返し再現される安定的な生活状態が幸福の原点になっている面がある。

・集合的幸福感については難しい概念ではあるが、自分だけ幸福になるところのはあまり好きではない等の感性も岩手の中にはあるのか。【第2回研究会意見】

・現在の幸福度と人並み感(協調的幸福感尺度)と関係性を統計的に分析した。結果は他の調査と同様に相関がみられた(両者の相関係数は0.72で、高い相関を示している)。日本人の幸福感が協調性、関係性と今後も相関し続けるのかは、幸福度の観点から施策を検討する際に協調性、関係性を重視して行うべきかという点と表裏にある。【内閣府 幸福度に関する研究会報告】

文化	幸福の捉え方	幸福の予測因
北米	ポジティブ 増大モデル 高覚醒	個人達成志向 ・主体性と自律性 ・個人目標達成 ・自尊心、誇り
アジア	ネガティブさの包摂 陰陽思考 低覚醒	関係志向 ・協調的幸福感、人並み感 ・関係目標達成 ・関係性調和

出所：内田 由紀子他
(2012)「文化的幸福観
—文化心理学的知見と
将来への展望—」

2 先行事例（協調的幸福感）

先行事例では、協調的幸福感を以下のような項目で測定している。

・協調的幸福感の設問例

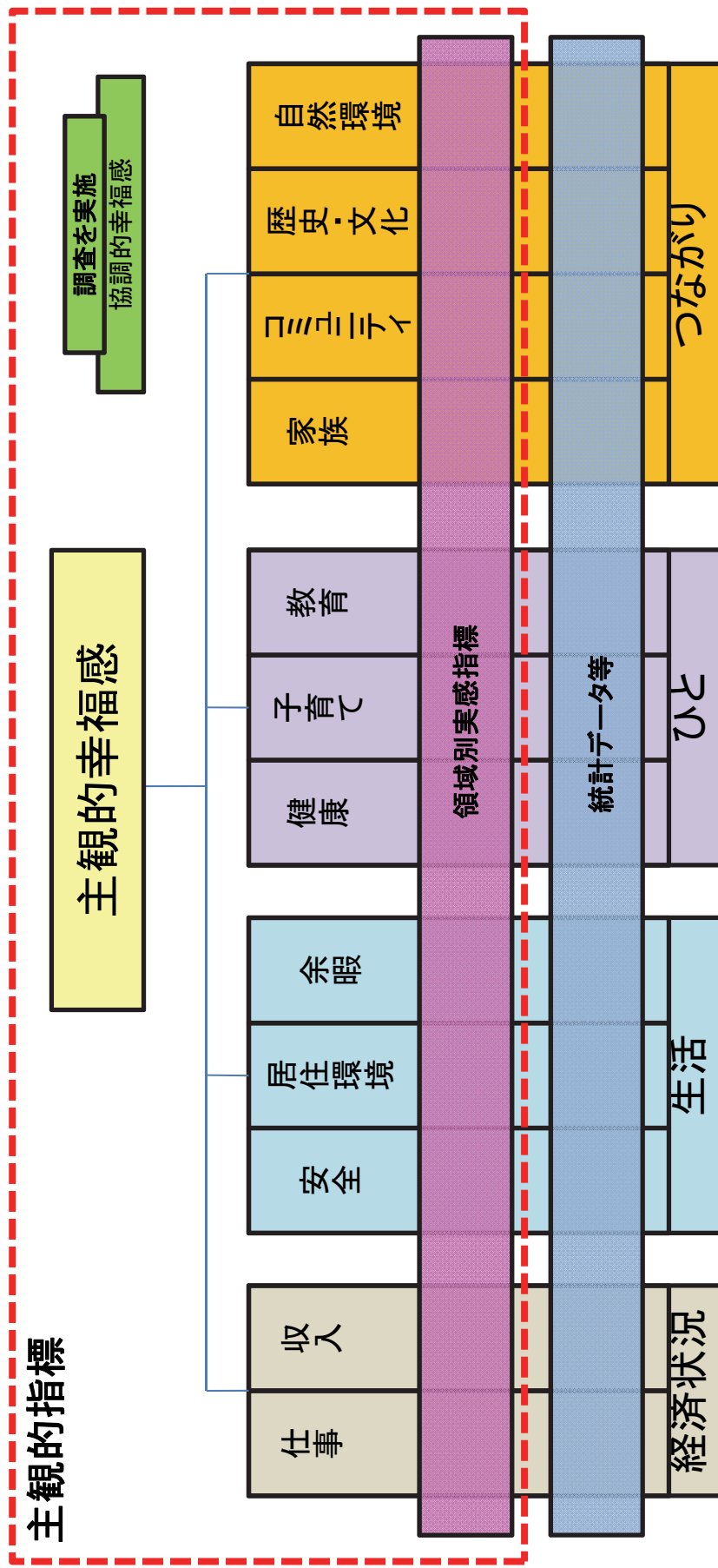
- 1 自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う。
- 2 周りの人に認められていると感じる。
- 3 大切な人を幸せにしていると思う。
- 4 平凡だが安定した日々を過ごしている。
- 5 大きな悩み事はない。
- 6 人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている。
- 7 まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う。
- 8 まわりの人並みの生活は手に入れている自信がある。
- 9 まわりの人たちと同じくらい、それなりにうまくいっている。

出所：Hitokoto, H., & Uchida, Y. (2015). Interdependent Happiness

検討事項4 指標の種類(イ 主観的指標の具体例について)

1 基本的な考え方(案)

- 主観的指標については、主観的幸福感と、幸福に関連する領域毎の領域別実感で構成することとする。
- 協調的幸福感について調査を実施する。



2 先行事例(①主観的幸福感、領域別実感)

先行事例の採用状況を踏まえ、主観的幸福感と領域別実感の設問は次のとおりとする。

指標名	設問	OECD	内閣府	東北活性化研究センター	富山県	三重県	京都府	熊本県	荒川区
主観的幸福感	あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか		○	○	○	○		○	○
	仕事のやりがい		○	○	○		○		○
	必要な収入や所得	△	△	△		○		○	○
	地域の安全							△	○
	住まいの快適さ	△	△		○				
	余暇の充実	△	△						○
	心身の健康	○	○	○	○			○	○
	子育て		○	△	○		△		○
	子どもの教育		△	△		○	△		△
	自身の学習【今回追加】	あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか			○				○
領域別実感	家族関係		○		○				
	地域社会とのつながり		△	△				○	△
	歴史・文化への誇り				○		△	○	○
	自然環境の保護		△	○					
	自然のゆたかさ【今回追加】		△	△					△
		地域が守られていると感じますか		△	○				
		自然に恵まれていると感じますか		△	△				

○:趣旨・表現がほぼ同じもの △:趣旨・表現が近いもの

2 先行事例(②協調的幸福感)【再掲】

先行事例では、協調的幸福感を以下のような項目で測定している。

・協調的幸福感の設問例

- 1 自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う。
- 2 周りの人に認められていると感じる。
- 3 大切な人を幸せにしていると思う。
- 4 平凡だが安定した日々を過ごしている。
- 5 大きな悩み事はない。
- 6 人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができている。
- 7 まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う。
- 8 まわりの人並みの生活は手に入れている自信がある。
- 9 まわりの人たちと同じくらい、それなりにうまくいっている。

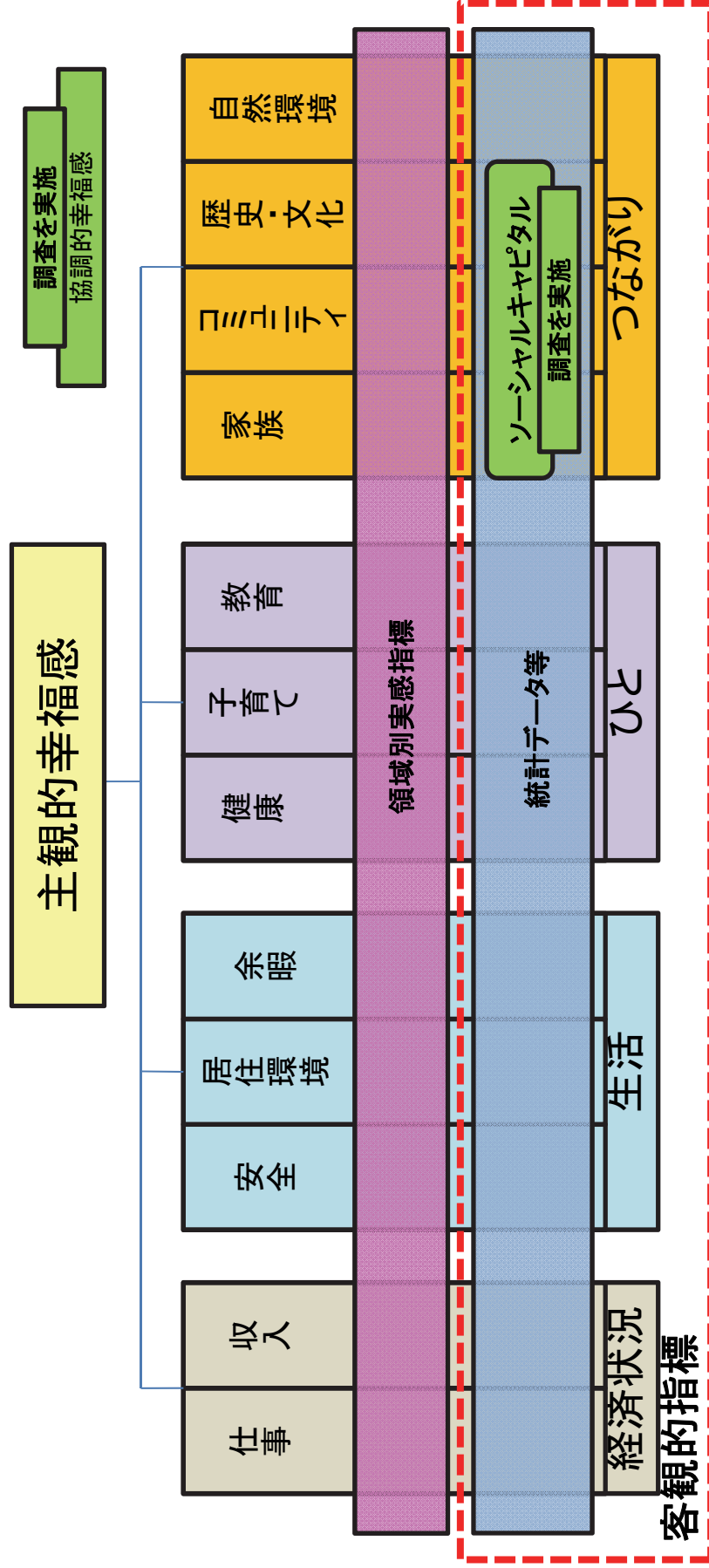
出所: Hitokoto, H., & Uchida, Y. (2015). Interdependent Happiness

検討事項4 指標の種類(ウ 客観的指標の項目例について)

1 基本的な考え方(案)

客観的指標は、主観的指標を補足するものとして位置付けることとし、客観的指標に含めるべき項目について、次の視点から選択する。

- ① 県民意識調査の結果から主観的幸福感と関係が認められたもの
- ② 先行研究で主観的幸福感と関係するとされているもの
- ③ 先行事例で採用頻度が高いもの
- ④ 岩手の目指すゆたかさを示すもの(岩手の強み弱みや、「つながり」に関連するもの)



2 県民意識調査結果

① 県民意識調査の結果から主観的幸福感と関係が認められた項目としては、次のものがある。

領域	項目名	説明
仕事	・失業	無職(60歳未満)の主観的幸福感は低い。
	・正規雇用	臨時雇用の主観的幸福感は低い。
家族	・世帯構成関係	夫婦のみ及び三世代の主観的幸福感が高く、一人暮らしの主観的幸福感は低い。
	・婚姻状態	

3 先行事例(①主観的幸福感と関係するとされている項目)

② 先行研究で主観的幸福感と関係するとされている項目については次のものがある。

領域	項目名	説明
仕事	・失業	失業者は幸福感が低いとの結論が多い。
	・正規雇用	パート・アルバイトの幸福感は低い。
収入	・収入、所得	所得が高い人は幸福感が高いとの結論が多い。
家族	・男性の家事時間	夫の家事育児参加は、女性の幸福感を上昇させる(白石・白石 2010)
	・婚姻状態	未婚者は幸福感が低く、結婚・婚姻によって幸福感が高まるとの結論が多い。
自然環境	・環境基準	大気汚染が幸福度に負の影響を与えているとの結論がある。

3 先行事例(②採用頻度が高い項目)

③ 先行事例で採用頻度が高い項目については次のものがある。

領域	項目名
仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・正規雇用 ・失業 ・女性、高齢者の雇用 ・求人倍率 ・事業所の販売額
収入	<ul style="list-style-type: none"> ・収入・所得 ・生活保護
安全	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪数 ・交通事故 ・自主防災組織 ・火災件数 ・消費生活相談
居住環境	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の面積 ・緑地
余暇	<ul style="list-style-type: none"> ・自由時間 ・趣味に費やす時間 ・労働時間
健康	<ul style="list-style-type: none"> ・寿命 ・食事、栄養 ・運動 ・自殺 ・医師、医療施設数 ・介護対象者数 ・老人福祉施設関係

領域	項目名
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・出生率 ・乳幼児死亡率 ・待機児童数 ・児童虐待
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ機会 ・学力 ・思いやり ・いじめ ・不登校 ・子どもの体力 ・生涯学習
家族	<ul style="list-style-type: none"> ・親子の会話 ・世帯構成 ・婚姻状態
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動参加率 ・高齢者の社会参加 ・相談相手の有無 ・定住意識 ・ボランティア活動
歴史・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの排出量 ・リサイクル ・環境基準

4 岩手の目指すゆたかさを示す指標（①岩手の強み、弱みを示すもの）

④ア 岩手の目指すゆたかさの参考となるような、本県が持つ強み弱みを示す指標として
は、次のようなものがある。

・全国と比較して水準が高い項目（例）	
領域	項目名 説明
安全	・犯罪数関係 刑法犯認知件数(人口千人当たり)が全国で2番目に低い(平成26年)。 【犯罪統計(警察庁)、人口推計(総務省統計局)】
	・交通事故状況 人口10万人当たり交通事故件数が全国平均よりも低い(平成26年211件(全国452件))。 【交通統計(県警本部)】
居住環境	・住宅の広さ 1住宅当たりの敷地面積が全国3位、持ち家住宅の延べ面積(1住宅当たり)が全国9位(平成25年)。 【平成25年住宅・土地統計調査(総務省統計局)】
教育	・不登校関係 不登校児童生徒率が全国で3番目に低い(平成26年度)。 【児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査(文部科学省)】
家庭	・世帯構成関係 三世帯同居率が全国7位(平成22年度)。 【国勢調査(総務省統計局)】
	・男性の家事時間 6歳未満の子供がいる世帯の夫の家事時間(週全体)が全国1位(平成23年度)。 【平成23年社会生活基本調査(総務省統計局)】
コミュニティ	・地域行事への参加状況 今住んでいる地域の行事に参加している率が、小学生で全国4位、中学生で全国2位(平成26年度)。 【全国学力・学習状況調査(文部科学省)】
	・NPO・ボランティア活動 ボランティア活動の年間行動者率(10歳以上)が全国5位(平成23年度)。 【平成23年社会生活基本調査(総務省統計局)】
歴史・文化	・募金活動関連 赤い羽根募金額(一人当たり)が全国2位(平成26年度)。 【平成26年度中央共同募金会調べ】
	・文化財の数 民俗文化財指定件数が全国8位(平成27年度11月時点)。 【文化庁「文化財指定等の件数」】
	・文化関連施設の数 常設映画館数(人口100万人当たり)が全国10位(平成26年度)。 【衛生行政報告例(厚生労働省)】 博物館数(人口100万人当たり)が全国11位(平成23年度)。 【文部科学省「社会教育調査」】

4 岩手の目指すゆたかさを示す指標（①岩手の強み、弱みを示すもの）

・全国と比較して水準が高い項目（例）（続き）	
領域	項目名 説明
自然環境	・環境基準関係 環境基準の達成率が全国平均よりも高い（平成26年度水質基準達成率99.1%（全国89.1%））。
	・森林の状況 森林率（総面積当たり）が全国8位。【平成24年林野庁調べ】
	・エネルギー関係 再生可能エネルギー自給率が全国8位（平成26年度）。【永続地帯2014 年度版報告書（千葉大学＋永続地帯研究会）】

・全国と比較して水準が低い項目（例）	
領域	項目名 説明
収入	収入・所得状況 一人当たり県民所得が全国31位（平成24年度）。【県民経済計算（内閣府）】
居住環境	情報関連 インターネット人口普及率が全国46位（平成26年）。【総務省（通信利用動向調査）】
余暇	趣味・娯楽活動関係 趣味・娯楽の平均時間が男性で全国47位、女性で37位（いずれも平成23年）【平成23年社会生活基本調査（総務省統計局）】
	労働時間関係 一人平均総実労働時間が全国46位（平成26年）。【毎月勤労統計調査地方調査（厚生労働省）】
健康	寿命関係 健康寿命が全国40位（平成22年）。【健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究（厚生労働科学研究費補助金）】
	自殺関係 平均寿命が全国45位（平成22年）。【都道府県別生命表（厚生労働省）】
教育	自殺関係 自殺死亡者数（人口10万人あたり）が全国47位（平成26年）。【人口動態調査（厚生労働省）】
	学歴関係 大学進学率が全国42位（平成27年度）。【学校基本調査（文部科学省）】
家庭	婚姻状況 未婚者割合（45-49歳男性）が全国45位（平成22年）。【国勢調査（総務省統計局）】
歴史・文化	多文化共生関連 海外渡航率が全国45位（平成26年）。【出入国管理統計（法務省）】 留学生数が全国43位（平成26年度）。【外国人留学生在籍状況調査結果（（独）日本学生支援機構）】

4 岩手の目指すゆたかさを示す指標(②つながりに関するもの)【再掲】

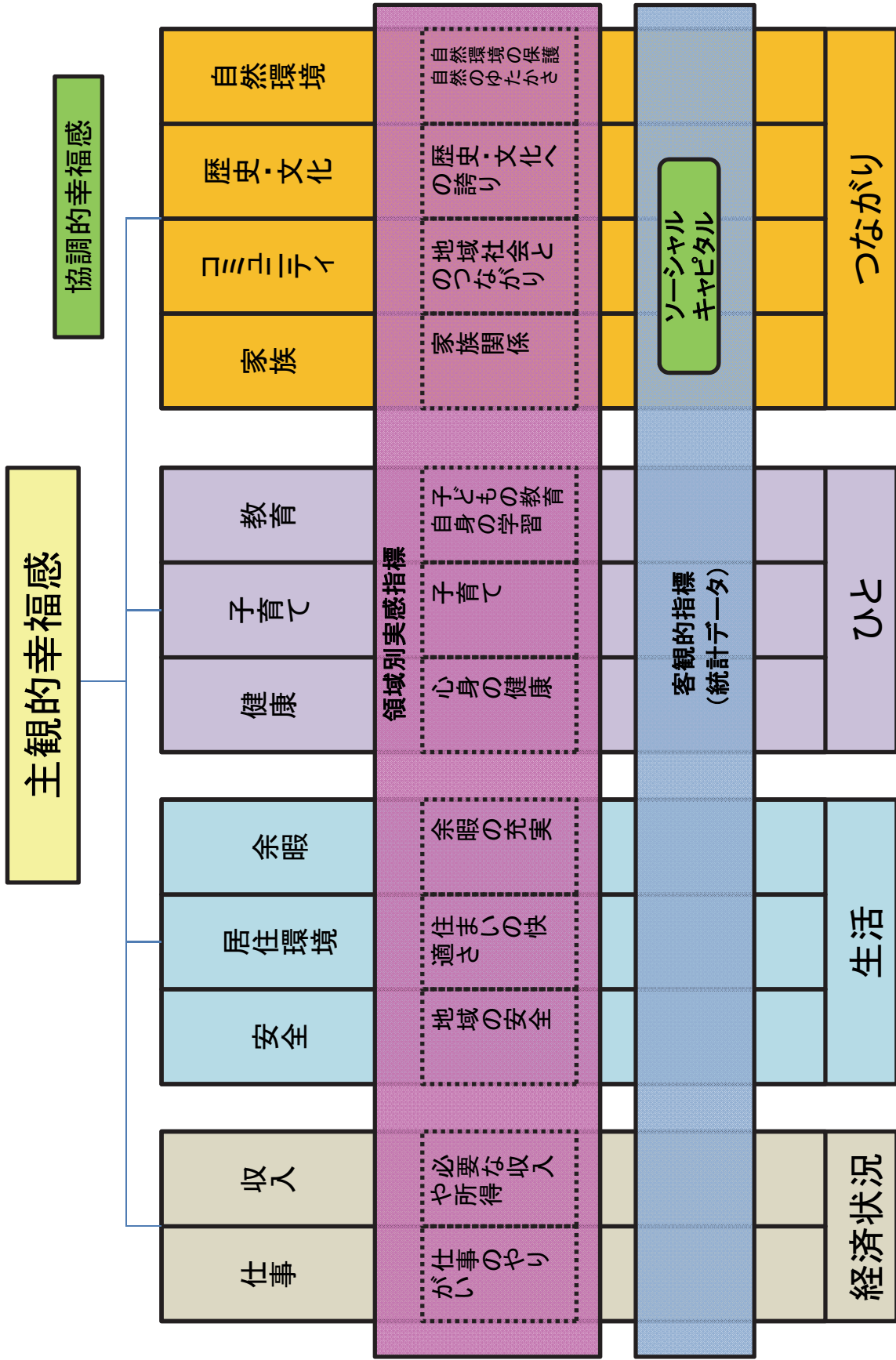
先行事例では、ソーシャルキャピタルを以下のような項目で測定している。

ソーシャルキャピタルの測定指標

ソーシャルキャピタルの構成要素		指標名
I つきあい・交流 (ネットワーク)	ア 近隣でのつきあい	(1) 隣近所とのつきあいの程度 (2) 隣近所とつきあっている人の数 (3) 友人・知人とのつきあいの頻度 (4) 親戚とのつきあいの頻度 (5) スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況
	イ 社会的な交流	(6) 一般的な人々への信頼
	ア 一般的な信頼	(7) 近所の人々への信頼度
II 信頼 (社会的信頼)	イ 相互信頼・相互扶助	(8) 友人・知人への信頼度 (9) 親戚への信頼度
	ア 地縁的活動への参加	(10) 地縁的な活動への参加状況
III 社会参加 (互酬性の規範)	イ ボランティア・NPO・市民活動への参加	(11) ボランティア活動行動者率 (12) 人口一人当たり共同募金額

出所：内閣府(2003) ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて

幸福に関する体系イメージ



検討事項5 県民参画等による指標の活用方法

1 基本的な考え方(案)

- 幸福には様々な面があるので、県民と一緒に考えていくことが重要であり、そのためには身近な人や地域の幸福について意識するきっかけづくりが必要。
- 県民に幸福について考えていただく方法には、ワークショップやセミナー等が考えられるのではないか。
- 次期総合計画への反映の観点からは、その策定に合わせて行うことが考えられるが、本研究会においても試行的に実施することとしてはどうか。

○幸福を測ることに意味がある、というスタンスを伝えていくことが重要。

○学生のサークルや地域の集まりなどで「ちょっと幸福を測ってみよう」というような仕掛けが考えられるのではないか。
【第1回研究会意見】

○県民運動として、ワークショップ等で活用するには、複数の指標を1つの数値に統合する「統合方式」の方がわかりやすいのではないか。

○ワークショップにおいて、参加者から、それぞれの点数と、その重みづけの数値も選んでもらって、総合点数が出るという「統合方式」を県民運動(ワークショップ)としてやってみようか。

【第2回研究会意見】

2 先行自治体、県民意識調査について

- 幸福を見える化する事等により、住民が幸福について考えるきっかけを作り、共に地域を良くしていく運動につなげていこうとしている自治体がある。
- 県民意識調査の結果によると、「現在の程度幸福だと感じているか」という設問に対し、「どちらともいえない」とする回答が24.3%を占めており、この層は、幸福かどうか判断する際に重視する項目の選択数が少ない傾向がある。

○ 先行自治体における導入の目的

ア 熊本県県民総幸福量

地域の幸福要因を「見える化」することで、各地域がそれぞれの幸福の姿を見出し、それに応じた有効な取組を進めていくことを可能とする

イ 荒川区民総幸福度指標

自分自身や身近な人、さらには地域の幸福を考えることを通じて、共に荒川区を良くしていく運動につなげていこうとするもの

○ 県民意識調査結果

ア 設問「あなたは現在のどの程度幸福だと感じていますか」への回答

○【幸福十やや幸福】 51.3%

○【どちらともいえない】 24.3%

○【幸福だと感じていない十あまり感じていない】 18.3%

イ 幸福かどうか判断する際に重視する項目への回答

○【幸福十やや幸福】を選んだ層…家族関係、自由な時間・充実した余暇、友人関係、自然環境等

○【どちらともいえない】を選んだ層…他の層より重視度が高い項目がない

○【幸福だと感じていない十あまり感じていない】を選んだ層…家計の状況

3 先行自治体①(幸福に関するワークショップ)

- 幸福に関して、ワークショップを実施している自治体がある。
- 熊本県と八代市では幸福量診断を実施している。

自治体名	内容	備考
熊本県	<p>県民の幸福に関する意識調査(アンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成25年5月～6月 3,000人(回収1,771人) ○平成26年5月～6月 3,500人(回収1,763人) <p>これからの幸福を考えるワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成27年2月8日、大学生を対象 ○ワークショップを実施、幸福量診断を試行 	アンケート ワークショップ
八代市 (熊本県)	<p>これからの幸福を考えるワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成28年3月11日、熊本県の幸福量診断を活用 	ワークショップ
滝沢市	<p>住民グループによる幸福実感の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成25年10月～平成26年3月 ○年代別グループでワークショップ、計6回開催 <p>幸福感を育むまちへ～市民フォーラム滝沢</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成27年8月29日、約220人 ○学生、母親ごとのグループでワークショップ 	ワークショップ
荒川区	<p>荒川区民総幸福度に関する区民アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成25年度から毎年実施 	アンケート

3 先行自治体②(総合計画に関するワークショップ)

総合計画策定に当たって、ワークショップや懇談会等を実施している自治体がある。

自治体名	内容	備考
茨城県	懇談会等を通じた県民意向の把握 ○平成22年1月～2月の計8回 ○明日の地域づくり委員会、いばらき青年懇談会 女性フォーラム、明日の茨城づくり東京懇談会	懇談会
群馬県	大学生高校生ワークショップ 群馬の若者100人と考える ○平成26年9月～10月 ○大学生45名、高校生29名、5名程度に分かれて実施	ワークショップ
【参考】 岩手県	地域等への説明会 ○平成21年6月～10月各地域で2回(素案、計画案) ○計1,358名	説明会
福岡市 (福岡県)	福岡未来ビジョンカフェ！で市民と対話 ○平成23年5月～9月 ○91回、約1,800名	懇談会
高島市 (滋賀県)	総合計画策定のための市民ワークショップ ○平成28年1月～平成28年5月の計5回 ○36名、4テーマに分かれて実施	ワークショップ

3 先行自治体③ 熊本県の幸福量診断(統合方式)

熊本県では、幸福量診断を、ワークショップやインターネットで実施している。

(1) 幸福の要因を4つに分類

○ 4分類の重みを聞く(1点～7点 合計10点)

- ・夢をもっている
- ・誇りがある
- ・経済的な安定
- ・将来に不安がない

(2) 4つの分類を構成する要素を12項目に分ける

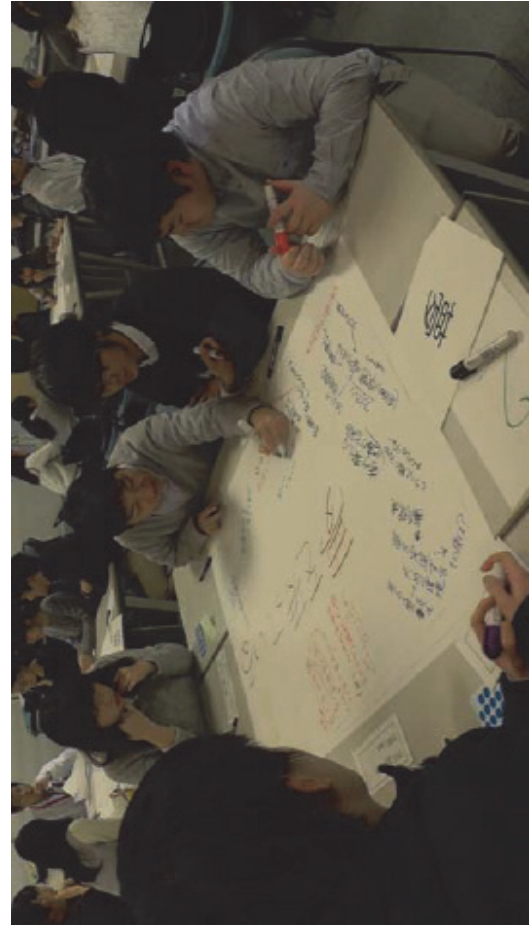
○ 12項目の満足度を聞く(5段階 そう思う～そう思わない)

- ①家族のことで将来の夢を持っていますか
- ②仕事のこと将来の夢を持っていますか
- ③夢の実現に向けて学べる環境にありますか
- ④地域の自然をすばらしいと感じますか
- ⑤地域の歴史や文化に誇りを感じていますか
- ⑥地域社会とのつながりを感じていますか
- ⑦必要な所得や収入が得られていると感じていますか
- ⑧必要なモノやサービスを購入できていると感じていますか
- ⑨今の住まいに快適さやゆとりを感じていますか
- ⑩心や体が健康だと感じていますか
- ⑪食べ物や地域の生活環境が安全だと感じていますか
- ⑫災害や防災に対する備えができていますか

左記(2)に(1)の重みを加味して、点数を算出

3 先行自治体③ 熊本県のワークショップ状況

熊本県では、大学生を対象に、ワークショップを行い、幸福量診断を試行している。



客観的指標とすべき項目(素案)

幸福に関連する領域毎に、客観的指標とすべき項目について、次の考え方から選択したもの。

- ①県民意識調査の結果から主観的幸福感と関係が認められたもの
- ②先行研究で主観的幸福感と関係するとされているもの
- ③先行事例で採用頻度が高いもの
- ④岩手の目指すゆたかさを示すもの(岩手の強み弱みや、「つながり」に関連するもの)
※岩手の強みに関連するものに○を、弱みに関連するものに●を記載。

今後、具体的指標を設定するに当たっては、以下のような課題が考えられる。

- ・領域毎に項目数にばらつきがあるか
- ・対象について、若者、成人、高齢者としているが、適当か
- ・他に含めるべき項目がないか

領域	客観的指標とすべき項目	対象					説明
			①県民意識調査結果	②研究事例	③先行事例	④岩手の目指すゆたかさ	
仕事	失業状況	成人	○	○	○		①複数の先行事例で採用されている。 ②失業者は幸福度が低いとの研究結果がある。 ③無職(60歳未満)は主観的幸福感が低い。
	正規雇用状況	成人	○	○	○		①複数の先行事例で採用されている。 ②パート・アルバイトの幸福度は低いとの研究結果がある。 ③臨時雇用者は主観的幸福感が低い。
	女性の雇用状況				○		①複数の先行事例で採用されている。
	高齢者の雇用状況	高齢者			○		①複数の先行事例で採用されている。
	求人倍率関係	成人			○		①複数の先行事例で採用されている。
	事業所の売上関連				○		①複数の先行事例で採用されている。
収入	収入・所得状況			○	○	●	①複数の先行事例で採用されている。 ②所得が高い人は幸福度が高いとの研究結果がある。 ④一人当たり県民所得(平成24年度) 全国31位
	生活保護関係				○		①複数の先行事例で採用されている。
安全	犯罪数関係				○	○	①複数の先行事例で採用されている。 ④刑法犯認知件数(人口千人当たり 平成26年)が全国2番目に少ない。
	交通事故状況				○	○	①複数の先行事例で採用されている。 ④人口10万人当たり交通事故件数(平成26年度)が全国平均よりも低い。211件(全国452件)
	防災組織状況				○		①複数の先行事例で採用されている。
	火災関係				○		①複数の先行事例で採用されている。
	消費者相談関係				○		①複数の先行事例で採用されている。
居住環境	住宅の広さ				○	○	①複数の先行事例で採用されている。 ④1住宅当たりの敷地面積(平成25年):全国3位 持ち家住宅の延べ面積(1住宅当たり 平成25年):全国9位
	都市の緑化状況				○		①複数の先行事例で採用されている。
	情報関連					●	④インターネット普及率(平成26年)、全国46位
余暇	趣味・娯楽活動関係				○	●	①複数の先行事例で採用されている。 ④趣味・娯楽の平均時間(平成23年):男性全国47位、女性37位
	労働時間関係				○	●	①複数の先行事例で採用されている。 ④一人平均総実労働時間(平成26年):全国46位
	自由時間関係				○		①複数の先行事例で採用されている。

領域	客観的指標とすべき項目	対象					説明
			①県民意 議調査結 果	②研究 事例	③先行 事例	④岩手の 目指す ゆたかさ	
健康	寿命関係	高齢者			○	●	①複数の先行事例で採用されている。 ④健康寿命(平成22年):全国40位、平均寿命(平成22年):全国45位
	自殺関係				○	●	①複数の先行事例で採用されている。 ④自殺死亡率(平成26年):全国47位
	食事・栄養関係				○		①複数の先行事例で採用されている。
	運動関係				○		①複数の先行事例で採用されている。
	医療体制				○		①複数の先行事例で採用されている。
	介護対象関係	高齢者			○		①複数の先行事例で採用されている。
	老人福祉施設関係	高齢者			○		①複数の先行事例で採用されている。
子育て	出生率関係				○		①複数の先行事例で採用されている。
	乳児医療関係	若者			○		①複数の先行事例で採用されている。
	待機児童関係	成人			○		①複数の先行事例で採用されている。
	児童虐待関係	若者			○		①複数の先行事例で採用されている。
教育	学歴関係				○	●	①複数の先行事例で採用されている。 ④大学進学率:全国42位(平成27年度)
	いじめ・不登校関係	若者			○	○	①複数の先行事例で採用されている。 ④不登校児童生徒率(平成26年度):全国3位
	学力状況	若者			○		①複数の先行事例で採用されている。
	思いやり関係	若者			○		①複数の先行事例で採用されている。
	子どもの体力関係	若者			○		①複数の先行事例で採用されている。
	生涯学習関係	成人・ 高齢者			○		①複数の先行事例で採用されている。

領域	客観的指標とすべき項目	対象					説明
			①県民意 識調査結 果	②研究 事例	③先行 事例	④岩手の 目指す ゆたかさ	
家族	婚姻状況	成人・ 高齢者	○	○	○	●	①複数の先行事例で採用されている。 ③一人暮らしは主観的幸福感が低い。 ④未婚者割合(45-49歳男性 平成22年):全国45位
	世帯構成関係	成人	○		○	○	①複数の先行事例で採用されている。 ③一人暮らしは主観的幸福感が低い。 ④三世帯同居率:全国7位
	男性の家事時間	成人		○		○	②男性の家事時間と女性の幸福度に関連があるとの研究結果がある。 ④6歳未満の子供がいる世帯の夫の家事時間(週全体):全国1位
	親子の会話状況	若者			○		①複数の先行事例で採用されている。
コミュ ニティ	NPO・ボランティア活動関係				○	○	①複数の先行事例で採用されている。 ④ボランティア活動の年間行動者率:全国5位 ソーシャルキャピタル指数の構成要素である。
	地域行事への参加状況				○	○	①複数の先行事例で採用されている。 ④今住んでいる地域の行事に参加している率 小学生:全国4位 中学生:全国2位
	募金活動関連					○	④平成26年度赤い羽根募金金額(一人当たり):全国2位 ソーシャルキャピタル指数の構成要素である。
	高齢者の社会活動関係	高齢者			○		①複数の先行事例で採用されている。
	相談できる相手				○		①複数の先行事例で採用されている。
	定住関係				○		①複数の先行事例で採用されている。
歴史・ 文化	多文化共生関係				○	●	①複数の先行事例で採用されている。 ④海外渡航者率:全国45位(平成26年)、留学生数:全国43位(平成26年度)
	文化財の数					○	④民俗文化財指定件数:全国8位(H27.11時点)
	文化関連施設の数					○	④常設映画館数(人口100万人当たり):全国10位 博物館数(人口100万人当たり):全国11位
自然 環境	環境基準関係			○	○	○	①複数の先行事例で採用されている。 ②大気汚染が幸福度に負の影響を与えているとの研究結果がある。 ③基準の達成率が全国平均よりも高い。 平成26年度水質基準達成率99.1%(全国89.1%)
	リサイクル関係				○		①複数の先行事例で採用されている。
	ごみの排出量関係				○		①複数の先行事例で採用されている。
	森林の状況					○	④森林率(総面積当たり):全国8位
	エネルギー関係					○	④再生利用可能エネルギー自給率:全国8位

幸福に関する平成 29 年県民意識調査の設問項目（案）

平成 29 年県の施策に関する県民意識調査の設問項目については、次のとおりとする。

- 1 問 4 において、主観的幸福感【継続】、領域別実感【継続】、協調的幸福感【新規】の調査を行う。
協調的幸福感の設問については、内閣府が行った調査等を基に設定する。
- 2 問 5 において、ソーシャルキャピタルに関連する項目【新規】の調査を行う。
設問については、内閣府が行った調査を基に設定する。

ソーシャルキャピタルの測定指標

ソーシャルキャピタルの構成要素		指標名
I つきあい・交流 (ネットワーク)	ア 近隣でのつきあい	(1) 隣近所とのつきあいの程度
		(2) 隣近所とつきあっている人の数
	イ 社会的な交流	(3) 友人・知人とのつきあいの頻度
		(4) 親戚とのつきあいの頻度
		(5) スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況
II 信頼 (社会的信頼)	ア 一般的な信頼	(6) 一般的な人への信頼
	イ 相互信頼・相互扶助	(7) 近所の人々への信頼度
		(8) 友人・知人への信頼度
		(9) 親戚への信頼度
III 社会参加 (互酬性の規範)	ア 地縁的活動への参加	(10) 地縁的な活動への参加状況
	イ ボランティア・NPO・市民活動への参加	(11) ボランティア活動行動者率 (12) 人口一人当たり共同募金額

出所：内閣府（2003）ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて

問4 県では、“私たちが実現していきたい岩手の未来”を創っていくため、「いわて県民計画」（平成21年度～平成30年度）に掲げる「希望郷いわて」の実現に向けてさまざまな取組を推進しています。希望郷いわての実現のため、あなたの「幸福」に関する行動や考え方等についてお伺いします。

問4-1 現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。①～⑭の各項目について、あなたの実感に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください (該当しない調査項目は、「わからない」を選択してください)					
	感じる	じや るや 感	えとど ないも ち いら	い感あ じま なり	い感 じ な	なわ い か ら
① 仕事にやりがいを感じますか	5	4	3	2	1	0
② 必要な収入や所得が得られていると感じますか	5	4	3	2	1	0
③ ころやからだ健康だと感じますか	5	4	3	2	1	0
④ 家族と良い関係がとれていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑤ 子育てがしやすいと感じますか	5	4	3	2	1	0
⑥ お住まいの地域は安全だと感じますか	5	4	3	2	1	0
⑦ 地域社会とのつながりを感じますか	5	4	3	2	1	0
⑧ 子どものためになる教育が行われていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑨ あなた自身が学習する環境が充実していると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑩ 地域の歴史や文化に誇りを感じますか	5	4	3	2	1	0
⑪ 地域の自然環境が守られていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑫ 自然に恵まれていると感じますか	5	4	3	2	1	0
⑬ 住まいに快適さを感じますか	5	4	3	2	1	0
⑭ 余暇が充実していると感じますか	5	4	3	2	1	0

問4-2 あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。

あなたの幸福感に近いものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

あなたの現在の幸福感 (1つ選び、番号に○をつけてください)					
感幸福 じてだ と いる	るとや 感や じ幸 て福 いだ	いど えち ないら いと も	いだあ ないと い感 じ幸 て福	じ幸 て福 だ と 感	わ か ら な い
5	4	3	2	1	0

問4-3 あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。該当する全ての番号に○をつけてください

1	家計の状況
2	就業状況
3	健康状況
4	自由な時間・充実した余暇
5	仕事のやりがい
6	社会貢献
7	家族関係
8	友人関係
9	職場の人間関係
10	地域コミュニティとの関係
11	子育て環境
12	治安・防災体制
13	教育環境
14	地域の歴史・文化
15	自然環境
16	居住環境
17	その他 (具体的に： _____)

問4-4 それぞれの調査項目について、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください					
	あてはまる	あや あてはまる	ない どちらともいえ	あま あてはまらない	あてはまらない	わからない
① 自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う。	5	4	3	2	1	0
② 周りの人に認められていると感じる。	5	4	3	2	1	0
③ 大切な人を幸せにしていると思う。	5	4	3	2	1	0
④ 安定した日々を過ごしている。	5	4	3	2	1	0
⑤ 人に迷惑をかけずに自分のやりたいことができる。	5	4	3	2	1	0
⑥ まわりの人たちと同じくらい幸せだと思う。	5	4	3	2	1	0

協調的幸福感

問5 ここからはあなたの「つながり」に関する行動や考え方等についてお伺いします。

問5-1 あなたは、ご近所の方とどのようなおつきあいをされていますか。(1)と(2)について、次のうちから当てはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

(1) つきあいの程度 (○は1つ)

- 1 互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている人もいる
- 2 日常的に立ち話をする程度のつきあいはしている
- 3 あいさつ程度の最小限のつきあいしかしていない
- 4 つきあいは全くしていない

(2) つきあっている人の数 (○は1つ)

- 1 近所のかかなり多くの人と面識・交流がある (概ね20人以上)
- 2 ある程度の人との面識・交流がある (概ね5～19人)
- 3 近所のごく少数の人とだけと面識・交流がある (概ね4人以下)
- 4 隣の人がだれかも知らない

構成要素Ⅰア 近隣でのつきあい

問5-2 あなたは、①友人・知人、②親戚・親類、③職場の同僚とどのようなおつきあいをされていますか。次のうちから当てはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	該当するものを1つ選び、番号に○をつけてください。					
	日常的にある	ある程度頻繁にある	ときどきある	めったにない	全くない	該当する人はいない
① 友人・知人とのつきあい (学校や職場以外で)	5	4	3	2	1	0
② 親戚・親類とのつきあい	5	4	3	2	1	0
③ 職場の同僚とのつきあい (職場以外で)	5	4	3	2	1	0

構成要素Ⅰイ 社会的な交流

問5-3 あなたは、一般的に人は信頼できると思いますか。それとも信頼できないと思いますか。あなたの考え方に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

5	4	3	2	1	0
---	---	---	---	---	---

問5-4 日常生活の問題や心配事について、あなたは相談したり頼ったりする組織がありますか。それぞれの調査項目について、あなたの考え方に最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください					
	る頼りに な	る頼りに 程 な度	いもど いち えら など	なりあ いにま でり き頼	き頼 なりに で	いわ か ら な
① 県、市役所・町村役場等の行政機関	5	4	3	2	1	0
② 学校、病院等の公的機関等	5	4	3	2	1	0
③ 警察や交番等	5	4	3	2	1	0
④ 地域の諸団体1 (自治会等の地縁団体)	5	4	3	2	1	0
⑤ 地域の諸団体2 (ボランティア、NPO等)	5	4	3	2	1	0
⑥ 勤務先(会社等)	5	4	3	2	1	0
⑦ 近所の人々	5	4	3	2	1	0
⑧ 家族	5	4	3	2	1	0
⑨ 親戚	5	4	3	2	1	0
⑩ 友人・知人	5	4	3	2	1	0
⑪ 職場の同僚	5	4	3	2	1	0

問5-5 地域※での活動状況についてお聞きします。

※ここからは、地域を小・中学校区から市区町村の範囲でお考えください。

あなたのお住まいの地域では、町内会・自治会や子ども会、老人会、消防団などの「地縁団体」「地縁活動」は盛んだと感じますか。当てはまるものを1つ選び、その数字に○をつけてください。

- | | |
|---|--------------------|
| 1 | そういった地縁団体は存在しないと思う |
| 2 | ほとんど活動は行われていないと思う |
| 3 | どちらともいえない |
| 4 | ある程度は行われていると思う |
| 5 | 非常に盛んであると思う |
| 6 | わからない |

問5-6 引き続き地域での活動状況についてお聞きします。

あなた自身の地域における活動頻度について、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

調査項目	最も近いものを1つ選び、番号に○をつけてください					
	4週日に以上	1週に3日	程2月程度に3日	1月日に程度	数年に数回程度	い活動してない
① 地縁的な活動 (例：自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子ども会など)	5	4	3	2	1	0
② スポーツ (例：地域の運動会やスポーツ大会など)	5	4	3	2	1	0
③ 趣味・娯楽活動 (例：芸術文化活動、生涯学習など)	5	4	3	2	1	0
④ ボランティア・NPO・市民活動 (例：まちづくり、高齢者福祉、子育て、環境美化、防犯、国際協力など)	5	4	3	2	1	0

Ⅲア 地縁的活動への参加

Ⅰイ 社会的な交流

Ⅲイ ボランティア
ア・NPO・市民活動

問5-7 あなたは地域への愛着を感じていますか。近いものを1つだけ選び、その番号に○をつけてください。

感じる	やや感じる	いもどい	い感あまり	い感なくて	いわから
5	4	3	2	1	0

1 指標設定の目的

- 経済成長は必ずしも人々の幸福とは繋がっていないとの研究結果（幸福のパラドクス）もあり、物質的なゆたかさに加え、岩手ならではの生き方や人のつながりといったゆたかさに着目していくことが重要。
- そのような視点を踏まえ、個人として、また、社会として、幸福を求めることができる岩手県を目指し、幸福の指標化に向けた研究を行うもの。

(1) 新たな施策の展開に活用できる指標とする。

短期的な数値の上昇や、他地域との比較を主眼とするのではなく、本県の強み弱みを多面的に分析し、よりよい施策への活用を重視する。

(2) 県民の美感を踏まえた指標とする。

県民意識調査の結果を重視した指標とする。また、指標を活用し、県民が自らの幸福について考え、身近な人や地域の幸福についても意識するきっかけとする。

(3) 物質的なゆたかさに加え、岩手が目指すゆたかさにも着目した指標とする。

幸福に関連する様々な要素を考慮するとともに、岩手ならではの生き方や人のつながりといったゆたかさにも着目する。

3 県民意識調査結果

- (1) **主観的幸福感について**
幸福の度合いを5段階で評価した主観的幸福感、既存の調査で聞いている生活満足度と異なり、経済的要素以外の要素を重視する傾向があった。
- ・ 先行研究等における調査と同様、性別・年代等の属性によって、異なる傾向が見られた。

- (2) **幸福を判断する際に重視した項目について**
先行研究等における調査と同様、健康、家族、家計等の順で重視されており、大きな特徴は見られなかった。
- ・ 性別や年代、主観的幸福感によって重視する項目が異なっていた。

(3) 領域別美感について

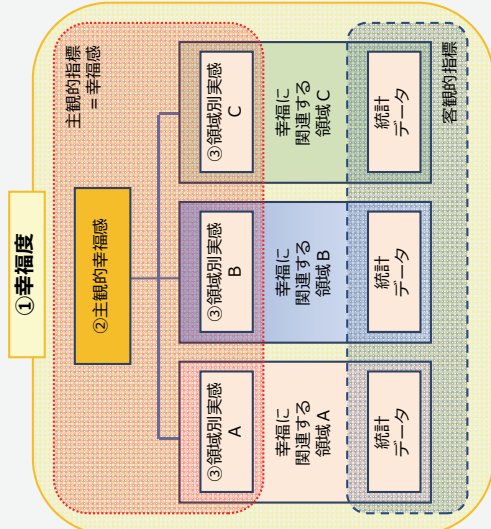
- 幸福に関連するとされている領域（収入、家族等の12領域）の美感については、家族、安全等の美感が高く、収入、余暇等の美感は低かった。
- ・ 強弱の差はあるものの、全ての領域において、主観的幸福感との相関が見られた。

4 研究内容

◆用語の定義

研究会では次のとおり用語を定義する。

- ① **幸福度**
幸福感を表す主観的指標と、幸福に関連する統計データによる客観的指標で示されるもの。
- ② **主観的幸福感**
「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、5段階で評価したものの。
- ③ **領域別美感**
幸福に関連するとされる領域毎に、その美感を5段階で評価したもの。



◆研究会における議論を踏まえた指標体系の考え方

- 県民意識調査結果や先行事例に基づき、次の12領域を幸福に関連する領域とする。
 - ・ 仕事、収入
 - ・ 安全、居住環境、余暇
 - ・ 健康、子育て、教育
 - ・ 家族、コミュニティ、歴史・文化、自然環境
- 指標は、多面的な分析を可能とする観点から、個別指標の集まりである「ダッシュボード方式」で示す。
- 幸福は主観的な面の影響が大きいため、主観的指標を中心とし、客観的指標で補足する。
- また、客観的指標については、全国との比較が可能となる指標を盛り込む。

◆具体的な指標設定の考え方

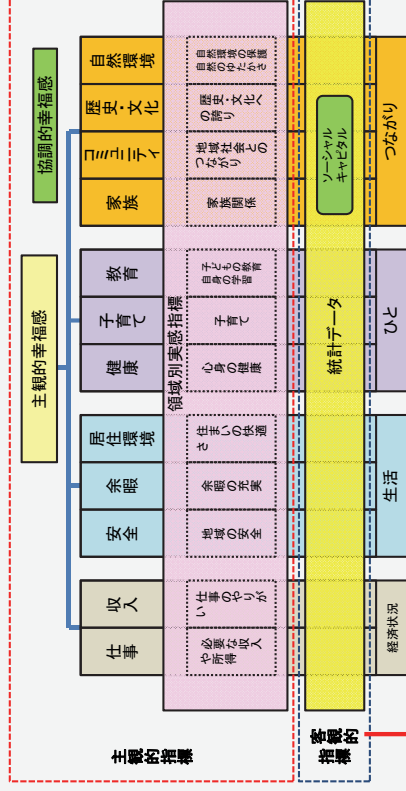
- 主観的指標は、主観的幸福感と幸福に関連する領域毎の領域別美感で構成する。
- 客観的指標は、先行事例や県民意識調査の結果等を踏まえ設定する。
- 指標の設定に当たって、世代やライフステージ等の属性によって重視する項目が異なることを考慮する。
- 岩手が目指すゆたかさを表す指標として、犯罪数に関するものや、労働時間に関するものなど、全国と比較して本県が特徴的な傾向を持つ指標を設定する。
- また、ソーシャルキャピタルや協力的幸福感など、「つながり」を重視した指標の検討を行う。

◆今後の検討課題

最終報告に向けて、以下の取組を実施する。

- ① **平成29年県民意識調査**：今年度調査との比較として、28年に調査した項目について再調査し、同様の傾向を示すか確認。新規調査として、ソーシャルキャピタル等を調査し、結果を分析。
- ② **県民に考えていただくための方策の検討**：ワークショップ等の方法の検討及び試行的実施。その際に活用するツール（幸福に関するテスト等）の検討。

指標体系案



領域名	客観的指標に含めらるべき項目例	客観的指標に含めらるべき項目例
仕事	失業状況、正規雇用状況、女性の雇用状況	客観的指標に含めらるべき項目例
収入	収入・所得状況	出生率関係、特機原産関係
安全	犯罪数関係、交通事故状況	学歴関係、いじめ、不登校関係、生涯学習関係
余暇	趣味・娯楽活動関係、労働時間関係	婚姻状況、男性の家事時間、親子の会話状況
居住環境	住宅の広さ、都市の緑化状況	NPO・ボランティア活動関係、地域行事参加状況
健康	寿命関係、自殺関係、外傷関係	歴史・文化
		文化財の数、文化関連施設の数
		環境基準関係、森林関係、エネルギー関係